

山陰仏社会報

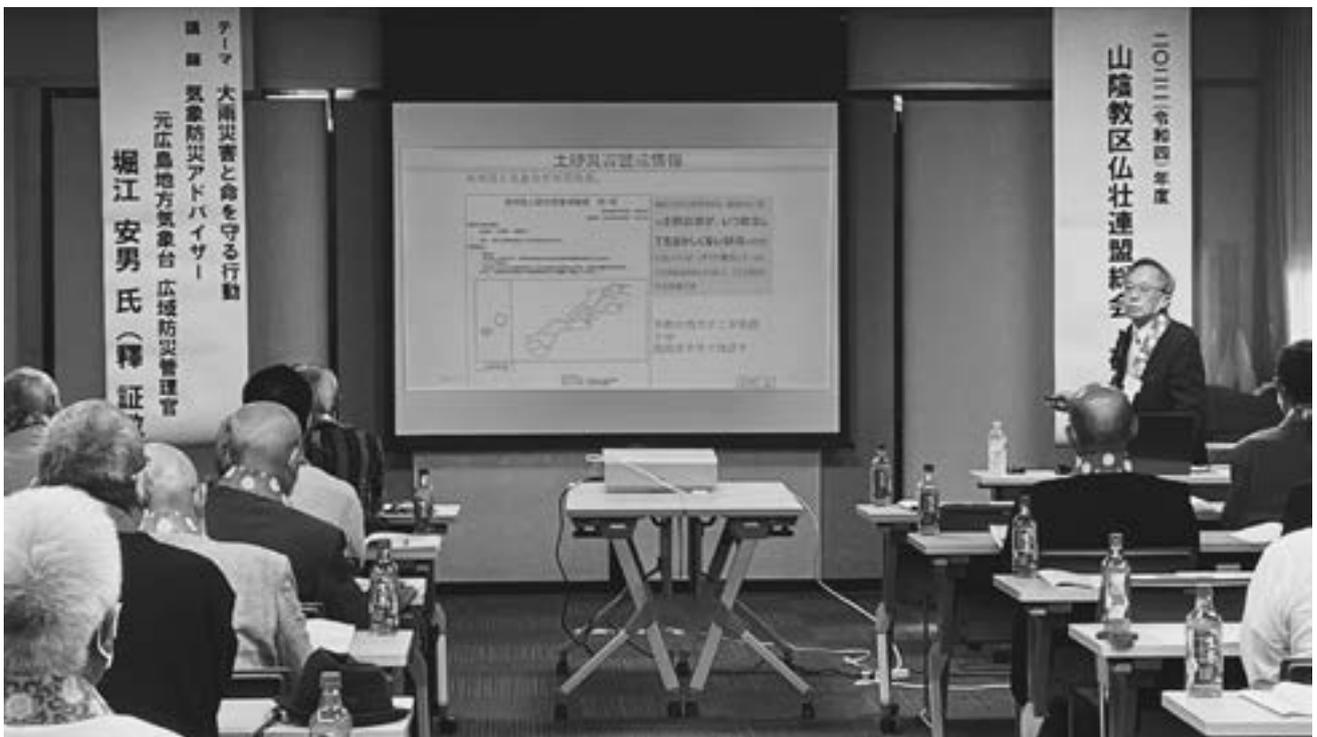
Sō-Sō

[壯創]

第20号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第20号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局
〒690-0002 松江市大正町443-1 (本願寺山陰教堂内)
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351



山陰教区仏教壮年会連盟 総会・研修会に参加して

飯南組 一念寺 和田幹夫

二〇二二(令和四)年度の総会を六月四日に山陰教堂教
化センターに於いて、開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策として、今年度の総会も前
年同様に、各組の参加人数を制限しての開催となり、二八名
で行いました。

総会については、例年同様に令和三年度の事業報告・決
算の承認を行い、令和四年度の事業計画及び予算案につい
て協議し、全議案ともにご承認をいただきました。

総会後に研修会を開催し、出雲南組の善徳寺仏教青壮年
部会会長の掘江安男氏に、ご講演をしていただきました。

掘江氏は、平成二十六年三月まで気象庁に勤められてお
り、令和三年十二月には国土交通大臣より、気象防災アド
バイザーの依頼を受けて、今日活躍をされています。

今回の講演は、「宗派仏教連盟の重点目標の(5)をうけ、
「大雨災害と命を守る行動」と題して、お話をいただきました。

令和三年に起きた島根県東部の大雨災害の様子、特に雲
南市を中心とした災害の様子を、気象図等を基に解説をい
ただきました。

雲南市の三刀屋地区を中心に、その周辺に線状降水帯が
次々とやって来た様子、河川の状況・土砂崩れの様子など詳
しくお話いただきました。

警報や注意報は、防災対応の時間が確保できるように発
表になります。

記録的短時間大雨情報が発表された場合は、すでにその
地域周辺では、何らかの災害が発生している可能性がある。
自然災害から身を守るために、避難は明るい時間帯に行
い、逃げ遅れた場合は、二階などの高いところに避難する。

家の後ろに山や崖のある所は、離れた部屋などへの水平避難
を行いますと、お話をいただきました。ご講演をいただ
き誠にありがとうございました。



第一三回 第四連区 仏教壮年会員研修会 山陰教区 仏教壮年会連盟結成四〇周年記念大会 「これからの仏教壮年会」私のひびく

鳥取因幡組 願正寺 房安 薫

二〇二二（令和四）年十月二十九日（土）に山陰教区内にて第一三回第四連区 仏教壮年会員研修会と併せて教区 仏教連盟として区切となる結成四〇周年の記念大会が開催されました。現役員・事務局の方には大変お世話さまでした。私も理事長に就任する前年、九代理事長・泉原理事長の時に三〇周年記念大会への出席のことを思い出しながら出席させていただきました。

当日はコロナ禍の中ということで大変だったと思いますが、第四連区の研修会という事もあり、四州・山口・備後・安芸・山陰と各教区遠近から多くの（二二三名）仏壮会員の方に参加していただいたようで熱気あふれるようでした。会場のくびきメッセ国際会議場は篤い思いの方々で一杯のように思えました。

開会式で山陰教区教務所長・佐々木了慎氏、現理事長・眞野明政氏のご挨拶があり、山陰教区 仏教連盟の四〇周年記念行事へと進行されました。今日まで連盟に加入し活動をしてこられた団体・単位会に表彰状が送られました。長きにわたり会をささえてこられた皆様の御苦労が思われたことでした。その後、個人表彰として、第九代・十代・十一代の理事長方へ表彰状が送られましたが、思い起こせば私も前々理事長の杉本氏、前理事長の泉原氏と、良い先輩方に恵まれたと、ありがたく思うことでした。

いよいよ会が進行してメインと言える二名の講師の方の講義・講演を

お聞かせいただくこととなりました。お話を聞きながら、どうすれば繋（つな）いでいけるのか、保（たも）つていけるのか、子どもと大人ではアプローチの仕方も変わるだろうが、現代機器・通信手段を使つての引寄せ方もありかなと考えるていました。後の講演の波北師が話の中で触れておられた二年遅れでお寺で成人式をされた話、本願寺新報に掲載され、地方紙でも発表されていたので、ご存知の方もあつたかと思いますが、これは子どもの時からお寺の行事に参加し、お寺との継（つ）ぎを持っていた延長線上の事ではないでしょうか。

少子化が進み、核家族化が進み、地方では高齢化に歯止めがかからず、集落そのものが消えてしまう事態も現実化しています。これを思う時、仏壮としての単位組織維持もむずかしくなる事でしょう。しかしそう言つてばかりはおれません。現実を直視しながらも「集まれる場」を話しあえる場を確保していく為にも、私達も今一步の頑張りが必要な時ではないかと思えます。誰かと話したい・聞いてもらいたい、そんな思いは、多くの人がお持ちだと思います。

「これからの仏教壮年会」は、地元ばかりではなく、遠方に住む子や孫にも声かけし、自分の行動を見せることが必要だと思います。お話を拝聴しながら、話しをしながらいろいろと考えさせられた大会でした。

ありがとうございました。 合掌

仏教壮年会連盟 中央研修会に参加して

大田西組 安楽寺 吉村 糾男

令和四年九月四日に仏壯連盟中央研修会がオンライン形式で開催されました。自分から率先してというより、大田西組仏教壮年会会長の眞野さんに請われて参加させていただきました。場所は眞野さんの自宅でパソコンを使わせていただき、プログラムに添って始めました。

私も含めて多分大半の人は初めての出席ではなかったかなと推測されます。まずは二人の講師の方から「法話」また、当日の課題「浄土真宗のみ教え」をいただいている「講義」を聞き各グループに分かれ、グループ座長の元で話し合いをするという形で行なわれました。ここで今回私が参加して感じたことを述べさせていただきます。まず最初に、相変わらずのコロナ禍の中での開催であるため、また、オンラ



イン形式のため参加者同志の顔色が見えず、その上マスクをしての発表であるため話し合いというより一方的な表現の仕方になっているように感じました。オンラインの弱点でしょうか、やはり話し合いというのは相手の反応を意識しながらするのがベターであるような気がつくづくしました。

さて当日の「講義」を聞いての私の率直な感想は、勿論私の無知もあるのでしょうが大変難しく感じました。コロナ禍の中、今お寺さんとの距離が遠くなり、また、葬式の形態も変わり、お説教を聞く機会が少なくなっている中、余計に難しく感じました。その中で私が感じとった結論は「おまかせすること」また率直な気持ちで「お念仏すること」の言葉が残りました。お念仏することは具体的に良く解るも、「おまかせすること」の本意がつかめず、自分なりに思う事は、「信じること」とこれがすべてかなあと思ったりしています。また、私は常に自分の生きている中で「死」という恐れを感じています。それを越えるために念仏するのです。それは今やつと浄土真宗の入口に立てたと思っているところです。

去る一月二十八日、本願寺広島別院安芸門徒会館で開催された第四連区仏教壮年会セミナーに参加しました。安芸教区三十三名、他教区七名の参加での研修会でした。はじめに組織拡充委員会の山口教区・国吉仁理事長が趣旨説明をされ、続いて二つの寺院仏壮会が活動事例報告をされました。

第四連区仏教壮年会セミナーに参加して

大田西組 龍藏寺 眞野 明政

最初に安芸北組品秀寺仏教壮年会会長が発表されました。人口四千人位の小さな町で仏壮会も他の仏壮会と同様に活動が停滞している中、何とか盛り上げようと仏教婦人会と合同でグラウンドゴルフ大会を初めて開催されたそうです。坊守さんも含めて五十六名の参加で真剣にプレーをされ、懇親会も含めて大盛況だったそうです。その後二回目も開催され、このゴルフ大会を機縁に仏婦会員の新規加入もあつたようです。念仏をいたたく者同士の楽しみある交流会も大切なことだと思いました。

次に沼田組仏教壮年会連盟の会長が報告されました。沼田組は寺数三十で寺院仏壮会は二十五団体、会員数は千八百六十二人で発足は二〇〇七年だそうです。役職も理事長以下住職五人を含む十九人体制でのぞみ、総会をはじめ各種会議も合議制で決定し行



事を執り行なっているそうです。定例研修会の内容も土砂災害やSDGs、貧困問題等身近な社会問題と積極的に取り組んでおられました。

最後に仏教壮年会連盟講師・大原瑞雲先生のまよめの話で終わりました。「仏教壮年会発祥の願いに聞く」というテーマで門信徒会運動から発展してきた仏壮会の歴史を話され、全員聞法、全員伝道でお寺を強くしようという基幹運動のことも話され、最後に仏壮会の組連盟化をすすめておられました。大雪の中での参加でしたが他教区の仏壮会活動も大変参考になりました。

シリーズ仏社紹介⑧

善徳寺仏教青壮年部会

出雲南組 善徳寺 堀江安男(釋証教)

遠慶山善徳寺仏教青壮年部会は、現在六十五名の会員で活動しています。

一九七八(昭和五三)年に出演南組(十ヶ寺)内七ヶ寺目の仏教壮年会として結成され、平成に入り青年部会を吸収して仏

教青壮年部会として四十四年にわたり、多くの会員の皆さまのご協力を得て、善徳寺の護持発展のために活動してきました。

主な活動は、すべての会員にお願いして盆前に刈払い機等を利用して境内や本堂裏・参道の除草・樹木の剪定作業、永代経法要や報恩講法要前には役員を中心に境内や参道の清掃奉仕を行っています。

八月末には、奉仕作業の慰労をかね、会員の協力で猪肉でのバーベキューに舌鼓をうつ、懇親会を境内で行なっています。秋には、パークゴルフ大会などを行ない、懇親を深めています。

四月には、子ども会行事の「花祭り」のお手伝い、九月には、仏婦行事の「月見の会」への参加を行なっています。

十二月三十一日は除夜会を開



夏のバーベキュー

奉仕作業の様子



催しています。

その他、出雲南組仏教青壮年連合会で開催される研修会やスポーツ活動に参加しています。

コロナ禍のため、活動することのできない状態が続く中、奉仕活動を中心に事業を実施してきました。新年度からは少しずつコロナ禍前の事業を復活させ、研修等も行なっていけたらと思っています。

編集後記

お寺の掲示板に「ないものを探すより、あるものを探せるか探さずです。」とありました。

私も「身近でできることには積極的に参加し体験する。」ということを中心に掛けております。

高齢化を理由に新しいことを避けてはいませんか？ 年齢等は関係ありません。まずは参加すること。朋友を誘ってみると良いかもしれません。

あるお寺で、学校の長期休み期間に寺子屋が開かれています。

初開催の時、予想以上にたくさんのお子さんが集まりました。それも御門徒のお子さんだけではありませんでした。

本堂に上がり、朝のお勤め、クラブト、清掃作業を体験して一日を終わります。

幼少期に体験することは、決して無駄なことではありません。幼少期に一度でもお寺で活動をするという体験があるからこそ、大人になりお寺が身近に感じるようになると思います。

江津仏連では、音楽や子どものダンスを通して、その家族や友人などが気軽ににお寺へ足を運べるような行事を計画していましたが、感染症の拡大で開催が延期となりました。

この行事を実現し、これをご縁に仏教活動に参加する方も増え、朋友の輪が広がり、お寺がもっと身近に感じていただける場になれば良いと思います。

合掌
(森田勝秋)